



箱根ヶ崎の宿

皆さん、こんにちは。皆さんは、箱根ヶ崎が、江戸時代のころから、「宿駅」として賑わっていたことを知っていますか。今日はそんな箱根ヶ崎の賑わいを見物しに行ってみることにしましょう。「それでは、出発します」

さあ、着きました。時代は、今から140年くらい前の、江戸時代の終わりのころです。場所は、日光街道と青梅街道が交差するあたりです。日光街道は、八王子方面から、徳川家康を祀る「東照宮」のある日光へ通じる道です。箱根ヶ崎でこの道と交差する青梅街道は、江戸城を築くために必要な石灰（白壁を造るた

めの材料）を運ぶために整備された道路です。江戸時代の中ごろになると、このふたつの街道を、いろいろな荷物を運ぶ人たちが行き来するようになり



ました。それぞれの地方の産物を、よそに売りに行くんです。遠くの神社やお寺にお参りに行く人たちも通るようになりました。こうした人たちが荷物を次の人に引き継いだり、泊まったりするために、宿屋が並ぶ

ようになったんです。そうした所を「宿駅」と言うんですよ。

馬の背や荷車に乗って、たくさん荷物が運ばれてきますね。何人かで楽しそうにやってきましたのは、お参りに行く人たちでしょうか。そろそろ夕方になってきましたから、みんなここで一泊するんでしょう。

宿に落ち着いた人たちが、旅姿をどいて外に出てきました。道の両側に並んでいるお店に入って、夕飯を食べたり、お酒を楽しんだりしています。呉服屋さんで着物を見ている人や露店をのぞいている人もいますね。

人出がだんだん多くなってきました。交差点から少し離れた所に立っている大きな石の灯籠に火が灯されましたね。この灯籠の火は、夜も賑わう箱根ヶ崎の宿を、一晩中、明るく照らすんですよ。



この灯籠は、関東大震災で崩れてしまいましたが、今は、狭山池公園に復元されています。一度、見にいらしてみてください。

(文・吉岡忠 絵・草野美奈子)

編集後記

12月議会も終え、希望に満ちた新春を迎えました。

昨年は、内外共に予想外ともいえる自然災害・人災・事故等の報道がなされる中に閉じた感があります。このような悲しみを少なくするために政治力が発揮できるようにしたいものです。我々地方議員の使命は、住民の財産・安全を守る事とします。

議会活動の内容を十分に伝える事は大変な事ですが、多くの皆様に愛読される議会だよりを目指し、編集委員一同努力して参ります。ご意見、ご感想をお待ちしております。

(高橋征夫)

